

言心先生の中国便り

あなたは、
幸福ですか？

もし、街で歩いている最中、「あなたは、幸福ですか？」と聞かれたら、どんな反応をするか？当然、幸福かどうかというとても真面目な質問を、いきなりすること自体は、大変失礼であることは、普通だと思う。

しかし、去年の秋、中国で一番有名な媒体・中国中央テレビステーション（CCTV）は、番組を作るため、「あなたは、幸福ですか？」という質問を、中国各地の町で無作為に3550人に聞いた。夜の一番人気番組「新聞聯播」は、その中の147人の答えを、八日連続で放送した。統計によると、約60%の人は、幸福と返答、たった10%の人が、不幸と答えた。

どうして、中国の一番権威的な媒体は、そんな幼稚な番組を制作するのか？当然、中国のほぼ全ての媒体は、共産党あるいは政府の宣伝機関で、この事によって、中国の媒体は、役割を限定されているからである。

去年、中国は日本を超えて、世界第二の経済大国になった。しかし、一方、国の自然環境は悪化し、貧富の格差は大きくなり、国民の不満は頂点に昇った。中国の宣伝機関は、それらの不満・不平を軟化するため、自画自賛の番組を作ってきた。

国連機関は、2012年4月、「世界幸福指数報告」を発表した。調査された中国人の中で、9%の人は、自分が幸福と答え、総合順位は、世界115位である。アフリカのケニアと同位である。

二年前、北朝鮮の宣伝機

関も、「世界各国国民の幸福指数」を発表した。203ヶ国の中、中国、北朝鮮、キューバは、前3位で、アメリカは、最下位である。しかし、どういう基準で、この順番を決めたか分からない。

国連と北朝鮮の幸福調査なら、全く違う結果が出て、不思議ではない。色々な調査機関は、色々な目的で、色々な調査結果を出すのは、自然だと思う。

今年の正月、4年ぶりに中国の田舎に帰省した。公園に行ったら、年寄りのお爺さんお婆さんがダンスしている姿が目に入る。彼らに、ダンスに夢中な理由を

聞いたら、答えはちょっと意外であった。今、中国の入院費用は、高額で、年寄りには、子孫に負担をかけないため、一生懸命ダンスをして、自分の体を鍛えるという事の様である。彼らは、幸福であるか否か。判断は難しい。

CCTVの国民幸福調査番組に対して、ネットでは批判と悪評が溢れている。その内のある意見は、とても冷静である。国民の幸福についての答えを求めるより、もっと彼らの権利と社会の公平に力を入れたほうが、よろしいのではないか？

中国国民の幸福度調査

CCTV調査

幸福=60%

不幸=10%

国連機関の発表

幸福=9%

総合順位世界115位

中国のほぼ全ての媒体は、政府の宣伝機関なのだ…

